



教育後援会報

京都府立農芸高等学校

第34号

平成29年3月

発行 京都府立農芸高等学校 教育後援会

編集 同事務局

飛翔！



教育後援会長

藤田 洋嗣

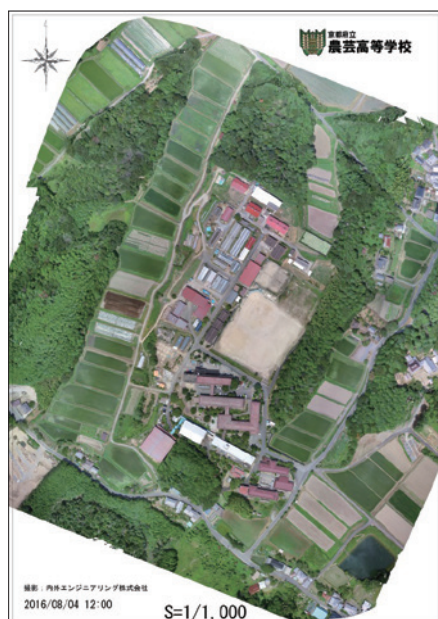
TPP「環太平洋パートナーシップ協定」について、昨年私は、次のように書いたと思います。『太平洋を囲む12ヶ国の中に日本も参加することになり、その影響は「日本の農業の受ける損失の問題」「食料の安定供給の問題」「TPP参加でこそ強い農業がつけられる?」「食料の自給率の問題」などさまざまな問題点が指摘されています。』

その後、国として加盟するかどうかについて、一年間いろいろ議論され、昨年12月9日参議院で可決されました。ところが、アメリカ大統領のトランプ氏が「就任初日に離脱」を表明したため、発効は絶望的になっています。今後どう日本の農業に影響するかについては、アメリカの政治の動向に注目する必要があると思います。

さて、新春のテレビを見ておりましたら、一流の外国人料理関係者が選んだ「なくさないでほしい冬の日本食」の第1位は「餅」でした。餅は、長く伸びてほどよい弾力性があるので、長寿を願ってお正月にお雑煮で祝う習慣があります。次にブリ大根・おでん・アンコウ・かに・甘酒・数の子・ウニ・白菜・フグの順番になっていました。(テレビ朝日1月7日の放映より) また、農林水産省によると「日本食」は(1)おいしいこと(2)安全であること(3)豊富



ドローン機体



ドローンによる航空測量写真

な食材で栄養バランスがよいこと(4)見た目に美しいこと、その中で、特に日本の食事がおいしいのは、日本の気候の変化によってできる調味料(発酵微生物によって生産された、味噌・醤油・酢・酒など)が影響しているといわれています。また、日本人の平均寿命が世界一であることもあり、最近世界中から注目を浴びています。その結果、外国人が、訪日前に期待することの1位が「食事」。外国人が好きな外国料理1位日本料理、2位イタリア料理、3位中国料理、4位韓国料理、5位アメリカ料理、6位フランス料理となっています。海外の日本食料店は2006年には約24,000店だったのが7年後には二倍以上に増えています。これは「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことも大きな要因といえます。

私は、このような事実を世界にもっと発信させ、食材を作っている日本の農業をさらに世界に浸透させ、食材の農作物を輸出させて「日本の食事」が「世界の食事」になる時期が来るよう期待し、そして日本の農業が今後さらに振興するよう願っています。

ところで、農芸高校では今年度からドローンによる航空測量を卒業生が勤めている企業と連携して実施しているとのことです。新しい技術を取り入れることで生徒の皆さんが興味を示すとともに、今後の農業をより発展してくれることを期待しているところです。

さて、教育後援会は、この会報をご覧いただければご理解いただけるように、入学した生徒の皆さんが在学中に能力を高める活動をする際に必要な支援をする組織で、部活動・農業クラブ活動・学校行事などを支援しています。

卒業生の保護者の皆様にはこの主旨をご理解いただき引き続きご支援頂きたいと思っています。また、在学生の保護者の皆様には他高校にはない、この組織をご活用頂き、お子様が高校生活をより一層充実できるよう激励してあげてください。

結びにあたり、卒業生の皆さんの前途を祝し、合わせて在校生の皆さんの校内外でのさまざまな分野での活躍を期待しています。

挨拶

校長 市川 榮作



農芸高等学校教育後援会の会員の皆様、平素は農芸高校の教育活動に御理解と御支援をいただき、感謝申し上げますとともに厚くお礼申し上げます。

さて、平成二十八年度の生徒達の成果につきまして、紙面に詳しくありますので何とぞ御一読ください。農芸

高校の特色を多くの方々に発信できる成果がそろったと思っています。本校の取組は、高く評価されるものです。が、それ以上に取り組んだ生徒の自信を生むという、教育的にも大きな役割を担っています。達成感や成功体験が、生徒に与える影響は計り知れませんが、教育後援会の御支援を力として、今後も新たな取組を推進したいと考えています。よろしくお願いたします。

ところで、農芸県ではない京都府において、農芸だけで生計を立てることは、なかなか厳しい現状です。そのた

めに、進路先としての「農業」の選択肢が少ないというのが現状だろうと思います。しかし、近年農業に対する見方が少しずつ変化しています。農業で起業する若者が増えているようです。

地方では過疎化、少子化が進む中、新たなビジネスとして農業に注目が集まっています。ITを駆使して省力化を図り、長年の知恵に頼った栽培技術を、データとして取り、分析をするこ

とで再現しています。また、物流やネットの発達も、生鮮品のマーケットを大きくし、ついには外国もマーケットとするまでになっています。起業する素地は今の若者にはあるようです。

まだまだ、私たちは食料は豊かにあるものだと思われています。食料の多くを海外に依存し、国内での生産基盤が弱くなっていることを考えれば、農業高校出身の若い力は大きな資源だと思ふのです。若い力に農業への思いを携えた若者を、農芸高校が育て農業界へ送りこめる力になればと思います。農芸高校を知らない分からないを少しでも無くせるように、教育活動を多くの人たちに情報として届けられるように、頑張ります。今後とも、学校の教育活動に御支援をよろしくお願します。

第34回農芸祭の真の目的

「心躍らせ、明日へ前進！」本校最大の授業である農芸祭は、第34回を迎えました。天候にも恵まれ、予想をはるかに上回る来校者を迎え大成功のもとに終了しました。

生徒たちは生きいきとした表情で来校者を迎え、実習生産物販売や学習成果の展示に取り組みました。自分たちが育ててきた農産物が、飛ぶように売れる光景に収穫の喜びに加えて販売の喜びを感じ、更には大地の恵みや動植物の命に感謝することが出来ました。

今年度は、新しく農芸名物になるであろう「農芸ホットドッグ」も販売しました。これは、野菜コースの生産物であるトマトの長期保存（ケチャップ）や6次産業化の手法等について、本校5期生で料理人の西田浩二様に相談したところ、後輩たちの為ならと懇切丁寧に御指導いただき誕生したものです。このことにより、教育後援会員

である西田様と在校生との新たなコラボレーションがスタートするとともに、日頃の生産技術中心の学習から加工・販売へと手を伸ばすことができました。また、生徒たちは、プロの料理人である西田様との取り組みの中で、加工や調理の技術に魅了されたのは勿論のことですが、それ以上に職業人としての拘りやプロとしての姿勢について、目に見えない何かを感じ取り大きく成長することが出来ました。

京都農芸34回目の農芸祭は前日準備を含めて僅か2日の短い時間でしたが、農芸の学びを集約する最大の授業となりました。各学年、各学科、各コースそれぞれが「わくわくドキドキ」することが出来る、実り多き時間を過ごしました。これを機に更に多くを学び、未来に向かって前進してくれることを期待したいと思います。

最後に、模擬店をはじめ、物心両面に渡り御支援・御協力いただきました教育後援会の皆様方に心よりお礼申し上げ、農芸祭の報告といたします。

(農場部長 竹井 環)



第一回セントラル ジャパンホルスタインショウ

平成28年4月14日・15日・16日静岡県御殿場の御殿場市馬術・スポーツセンターでセントラルジャパンホルスタインショウが開催されました。

当ショウは昭和51年より40回の歴史がある中部地区ブラックアンドホワイトショウが「全国からの出品を受入れ、日本最大級で高水準なショウを目指すため」セントラルジャパンホルスタインショウと名が改められました。その記念すべき第一回大会へ私たち農芸高校畜産部は参加しました。

この大会に向けて、毎日休むことのない飼養管理だけでなく、乳牛たちの健康的な体型を維持するために歩行調教や、美しく魅せるために毛刈りを行い、牛体専用シャンプーを使用しての洗浄を毎日行いました。

今大会では20の都道府県より180頭の乳牛が出場し、ハイレベルな争いの中、農芸高校から出品した「グロリーオーサファーストモデル キョウト ET」が第五部のクラスチャンピオンを獲得しました。

同時に最優秀学校賞として「THE MOST BEAUTIFULLY PERFORMED SCHOOL AWARD」を獲得しました。農芸高校畜産部の努力が実を結び結果となり、生徒たちの自信に繋がったと感じています。

平成29年11月開催予定の第9回全日本ブラックアンドホワイトショウでも活躍できるような日々の努力を積み重ねていきたいと思っています。



日本菊花全国大会

10月20日～11月23日に大阪府和泉市(株)国華園で開催されました第33回日本菊花全国大会に植物バイオ部で栽培した菊を出品させていただきました。この大会は日本各地から名人と呼ばれる方々が出品し、部門ごとに花容、品位、培養を競う大会で、菊の日本一決定戦とも言われています。今年も、福助花壇の部と三本立て12鉢花壇の部に出品させていただきました。

福助花壇とは大菊を背丈50cm以内に抑え、一列に5鉢並べ、花の大きさ、配色、品位を競う競技です。今年は約180作品中第2位の金融担当大臣賞を受賞することができ、一昨年の第7位、昨年の第5位と日本一まであと一歩というところまで来ることができました。

三本立て12鉢花壇とは大菊を鉢底から背

丈を105cm～165cmまでとし、1株から3枝を立ち上げた花を横に3列、縦に4列並べた花壇の美しさで競う競技です。本年度は昨年度の28位から15位の堺市長賞をいただくことができました。今年は夏が暑く、9月は曇天と人にも菊にも厳しい環境でしたが、生徒たちがよく頑張ってくれた結果だと思っています。

菊を育てる方は年々、減少していると聞いています。本校では高校生でもできる園芸の基礎に忠実な簡単な菊づくりをコンセプトに活動をしています。今後は日本一を目指すとともに、地域の方や小中学生との連携を通じて、裾野を広げていくことができればとも思っています。



技能五輪全国大会

今年もプロの青年造園家と競い造園技能の日本一を目指し、10月21日～24日に山形県で行われた第54回技能五輪全国大会に出場しました。

環境緑地科造園コース、造園部では13年連続で京都府代表としてこの大会の「造園」職種に出場し、前回大会においては銀賞を獲得することができました。

今年で54回を迎える技能五輪とは青年技

能者の技能レベルの日本一を競う大会で40職種、1000人以上が参加する大会で、金賞を獲得すると今年、UAEのアブダビで開催される世界大会に出場することが出来ます。

この大会の造園競技に京都府代表として本校から2年生、平林凌と高矢和希の2名がペアを組み参加しました。他府県からの出場として本校の卒業生も参加していました。

競技内容には、石積み、レンガ敷き、石貼り、木工、植栽などの要素があり、寸法の正確さと仕上りの美しさが求められます。すべての要素をやり遂げ、延べ10時間

半を二日間で完成させる課題となります。競技課題の発表は7月下旬にあり、それから図面を解読し問題点を見つけ、施工方法を考え練習をしました。

出場が決定した6月から大会直前まで、放課後、夜間、休日とはほぼ毎日、延べ練習時間は350時間を超えました。

大会は両日ともに曇り空の中行われました。一日目は、少し作業は遅れ気味でしたが、規定の作業まではクリアすることが出来ました。

二日目は、現地の土に悩まされました。山形の独特の土質で砂が多く締め固まらな

いので、作業はするのは困難でした。しかし、時間内に無事に完成することができました。

結果は、目指していた入賞を逃しました。参加選手はまだ、2年生です。次回大会もまだ、チャンスがあります。大会直後からこの悔しさをバネに次回大会は表彰台を目指し、練習に取り組んでいます。



部活動 および

農業クラブ 専門委員会

パワーリフティング部

昨年、アメリカ合衆国テキサス州キリンで開催されました「2016年世界クラシックパワーリフティング選手権大会」に、サブジュニア男子83kg級に3年生の田中眞君、サブジュニア女子63kgに2年生の野村優さんが日本代表として出場しました。

田中君は二回目の世界大会ということもあり、良い緊張感の中で自分の精一杯の力を発揮し、スクワット種目とデッドリフト種目において自己ベスト記録を更新しました。

野村さんは初めての世界大会でしたが、緊張を感じさせないいきいきとした試技で、デッドリフト種目では自己最高記録の142.5kgを持ち上げ、見事銅メダルを獲得しました。また、全種目において日本記録を更新するなど素晴らしい結果を残しました。

二名にとって世界という大舞台で多くの国の選手と競い合ったことで、大きな自信を得るとともに、今後への目標ができたことと思います。これも、教育後援会並びにPTA、学校関係者の皆様方から多大な御支援、御声援をいただいたおかげです。誠にありがとうございました。

今年度も1年生が入部し、現在は先輩とともに世界大会を目指し練習に励んでいます。今後



パワーリフティング部世界選手権大会出場支援基金会計報告書

平成28年6月19日～27日
アメリカ キリン

収入の部 (単位: 円)		
項目	金額	備考
繰越金	107,893	
受取利子	6	
支援基金	465,850	108名
合計	573,749	

支出の部 (単位: 円)		
項目	金額	備考
世界大会出場補助金	240,000	出場生徒2名、引率教員1名
支援基金依頼・お礼状郵送料等	47,510	
合計	287,510	

収入 573,749円－支出 287,510円＝差引残額 286,239円
残額 286,239円については、次年度へ繰り越します。

とも御支援のほどよろしくお願いいたします。

硬式野球部

今年度のチームは新人戦にあたる秋季大会で逆転コールド勝利を収めることから始まり、毎週末の練習試合でも今までに勝てなかったような学校相手に2連勝するなど、たくましいチームとして成長していきましました。一冬越えて迎えた春季大会では、後にベスト16に進出する京都八幡高校に2－3と1点差の好ゲームを演じました。敗れはしたものの部員たちの意地を感じた瞬間でしたし、この結果には大きな反響もありました。夏の大会

では龍谷大平安高校に敗れましたが、胸をはって最後まで堂々と戦ってくれました。今後も人間的な成長を目標に掲げ、新たなチーム一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。温かいご支援、ご声援の程よろしくお願ひいたします。

陸上競技部

陸上競技部は、2年生1名、1年生2名の3名で今年度は活動を行ってきました。全員が異なる種目のため、一緒に練習をするということが難しい中、各自が目標設定を行い自身の記録達成のために真面目に取り組ましました。昨年よりも、多くの大会に参加することができ、他校の生徒からも刺激を受けたものが、大会では練習の成果を発揮してくれたものと思います。

個人種目ということもあり、継続して練習に取り組む難しさはありますが、結果だけでなく日々の継続した練習習慣が肉体的な成長を生むと共に、精神的な成長へと繋がっていると考えています。今後ともご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

バドミントン部

今年度は、3年生女子1名、2年生女子1名、1年生男子5名女子2名の計9名で活動してきました。少人数ではありますが、日々練習に取り組む技術の向上に努めています。昨年度は男子部員が在籍しておりませんでした。今年度は男子部員が加入してくれて、部活として活気があります。3年生が部活を引っ張ってくれ、しっかりと活動しています。公式戦では、勝利に手が届かず悔しい思いをすることもありましたが、亀岡市の大会や、口丹高体連の大会では結果を残すことができました。その経験を活かして来年度はさらなる飛躍につながるように、部員が日々、技を競いながら活動しています。

今後ともバドミントン部の活動にご支援いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

硬式テニス部

硬式テニス部は2年生3名、1年生8名で活動しています。

初心者が多いチームですが、日々の練習を通して着々と技術を高めていっています。

今年度は高体連の試合だけでなく、地域の試合やジュニア大会にも積極的に参加し、試合経験を積むことで亀岡市の大会では結果を残すことが出来ました。

個人のプレーが目立つテニスですが、チームとして活動することで技術を高めていけるよう取り組んでいます。今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

サッカー部

サッカー部は、現在2年生1名で活動しています。人数は少ないですが、11月から近隣の高校と合同チームを組み、週末には合同練習を行っています。また今年度の新人戦から、合同チームでの出場が可能になり、人数が少ない中でも公式戦に出場しています。



さて、今年度の秋に行われた選手権大会を振り返ると、3年生の奮闘ぶりを今でも鮮明に思い出します。4月から顧問になり、私も生徒たちもたくさん戸惑いと挫折がありました。それでも、最後の大会で必死にボールを追いかけている3年生を見たとき、素直に良かったなと思います。今後の進路の中で、少しでもサッカー部での経験が活きてほしいと心から願ひます。

今後、部員不足が予想されます。しかし、「チーム意識」と「感謝の気持ち」を忘れずに、近隣の高校のご協力も得ながら、少しでも本気でサッカーをしたい子供たちのために、全力を尽くします。来年度以降も温かいご支援をよろしくお願ひ致します。

卓球部

今年度、卓球部は0名からのスタートでしたが、卓球に興味を持ってくれた3年生が入部し、短い期間でしたが意欲的に練習に参加してくれました。結果、1年生が3名(女子1名)入部し人数が増えてきました。未経験者が多いですが、口丹波合同練習会では大學生に指導して頂き、サーブ技術の向上にもつながりました。高体連の大会だけでなく亀岡市の大会にも積極的に参加しました。「1セット、1点でも多く取る」という気持ちで意気込んでおります。部活動だけでなく学習活動にも積極的に参加し、学業との両立を目指しております。今後も応援よろしく願います。



バスケットボール部

今年度は新入部員が多く、3年生5名、2年生5名、1年生8名、マネージャー3名(女子3名1名、2年2名)の合計21名で活動がスタートしました。3年生は11月のウィンターカップで引退したため、現在は15名となっています。人数が増え、「スターターで試合に出たい」、「少しでも長い時間試合に出たい」という思いから、チームの中で競争心が生まれ、早朝、昼休み、練習後に自主練習をする姿がみられるようになりました。また、外部コーチの指導も仰ぎ、チームの雰囲気も活気づいています。その日々の積み重ねが少しずつ表れ始め、公式試合や練習試合で勝利する回数が増え、格上のチームに対しても負けん気をもって挑んでいた。今年度は新入部員が多く、3年生5名、2年生5名、1年生8名、マネージャー3名(女子3名1名、2年2名)の合計21名で活動がスタートしました。3年生は11月のウィンターカップで引退したため、現在は15名となっています。人数が増え、「スターターで試合に出たい」、「少しでも長い時間試合に出たい」という思いから、チームの中で競争心が生まれ、早朝、昼休み、練習後に自主練習をする姿がみられるようになりました。また、外部コーチの指導も仰ぎ、チームの雰囲気も活気づいています。その日々の積み重ねが少しずつ表れ始め、公式試合や練習試合で勝利する回数が増え、格上のチームに対しても負けん気をもって挑んでいた。



柔道部

まだまだ課題はありますが、来年度はチーム全員で勝つ喜びを味わうために、休まず練習に参加し、精神力・体力・技術を向上させていきたいと思っています。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

今年度の主な成績は下記の通りです。体育コースのない公立高校では安定した結果であるといえます。キャプテンの中場君、2・3年生の上級生のリードのもと、クラブ員全員が日々努力し頑張っています。

近隣の高校に柔道部のある学校がなく、校内での部員たちだけの練習では不十分です。しかし、クラブ活動に部員全員が熱心に取り組み、自分たちで練習方法も工夫し、日々頑張っています。

日々、「二つ上に、一歩前に、」をモットーに活動をしています。

教育後援会の方々、保護者の方々にはさらにご助言、ご指導を頂きながら、より高い結果を出したいと思っています。今後とも応援をよろしく願います。

【主な成績】京都府公立高校大会男子団体2部 準優勝、京都府高校総体2部下級 準優勝、インターハイ予選男子団体 ベスト16(4年連続)、全国柔道選手権大会京都府予選(男子個人体重別) ベスト8、全国柔道選手権大会(男子団体) 京都府予選 ベスト16(5年連続)、京都府高校柔道段外選手権3位入賞 2年 吉田薫平

剣道部

今年度は、同好会から部に昇格しての初めての年でした。選手としては3年生男子3名、1年生女子1名で活動をしました。6月に行われたインターハイ予選では、個人戦では、男女それぞれ記念すべき公式戦での初勝利をあげた他、男子が最少人数での出場ではありましたが、初の団体戦出場を果たしました。

また、3年生の4月から剣道を始めた男子部員1名が、約3カ月の経験で7月に初段に合格する(私の知る限りでは最短記録です)など、実りの多い年でした。

茶道部

体育祭では部活動対抗リレーに出場する等で3年生が中心になり、活動を盛り上げてくれました。昨年度に引き続き、8月3日(水)「5日(金)」の2泊3日で本校の体育館をお借りして、合同合宿を開催させていただきました。14校、約150名の高校生が集まり、大規模な合宿錬成ができました。今後とも、剣道部の活動に御支援をよろしく願います。

私たち茶道部は3年生3名、2年生3名、1年生2名で活動しています。裏千家の村上妙子先生を講師にお招きし、毎週水曜日放課後にお稽古をしています。今年度も農芸祭でお茶会を催し、多くのお客様に日頃の練習の成果を見ていただきました。茶道を通じて日本文化やおもてなしの心を学ぶことを目標に、準備や後片付けまで皆で協力し合いながら楽しく活動しています。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

合唱部

今年度、合唱部は前年度から引き続き3年生の部員一人から活動が始まりましたが、1年生が次々と入部し、1学期は6人で京都合唱祭に参加し、2学期は8人で京都総合文化祭に出演し、久しぶりに活気のあるクラブ活動ができました。

しかし、その後は生徒個々の事情で、3学期には部員は3名となりました。ですが、今年も3月27日(月)に行う第7回亀岡×農芸高校合同定期演奏会に向けて練習をしています。会場は昨年同様ガレリア亀岡の「響ホール」です。

ぜひ、多くの方にご来場いただき生徒達の歌声を楽しんでいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

植物バイオ部

本年度は3年生1名、2年生5名、1年生7名で活動をしてきました。今年こそは日本

一をテーマに秋の菊花展へ向けて、菊作りを中心に活動に取り組んできました。夏には栽培中のトラブルなどもありましたが、日本菊花全国大会を始め、京都府立植物園、宇治市植物公園、ガレリアかめおか、錦織寺、はままつフラワーパークと各方面に出展することができました。今後とも伝統ある花卉園芸文化を通じて生徒と地域の方との交流を深めていくとともに、花文化の担い手を少しでも増やすことに貢献できればと思っています。



畜産部

今年度、畜産部は男子7名、女子4名で活動をしてきました。「365日欠かすことのない飼養管理」をテーマに土日祝日問わず、毎日継続して作業を行う事で、物言わぬ家畜達が発するシグナルに気づく技術を体得するために活動をしています。

平成28年度の共進会では京都府内の大会だけではなく、多くの共進会へ参加してきました。兵庫県淡路島で開催された「第34回兵庫県B&Wショウ」では本校から出品した(エールザ号)がリザーブグランドチャンピオンを獲得。広島県三次市で開催された「第31回中国地区B&Wショウ」では(ファースト号)が未經産グランドチャンピオンを獲得。静岡県御殿場で開催された「第一回セントラルジャパンホルスタインショウ」では(ファースト号)がクラスチャンピオンを獲得しました。

府外の高校と情報を交換し、プロの酪農家と競うことで生徒達の将来への視野は広がります。自信へと繋がっています。

今後とも活躍できるよう精一杯取り組んで参



りますので、今後ともご支援のほどよろしく
お願いいたします。

造園部

造園部では、技術習得を目指し、造園技能
検定の取得に向けての取り組みや校内の植え
られた樹木の剪定作業や実習場の管理、施設
の改修、補修など、校内美化活動にも取り組
んでいます。とくに、「笑顔の交差点」おい
しい庭づくり」をテーマに農場入口のス
ペースにピザ窯を作り、その周辺にベンチ、
テーブルなどを配した庭づくりを行っていま
す。来年度、完成予定です。

また、地域貢献として、近隣寺院の庭園の
管理を任せていただき、技術の向上とともに
ボランティア精神を養うことができました。
今年度も造園部から13年連続で全国技能五
輪全国大会に2名の部員が出場しました。今
大会は二人一組の競技でした。3年連続入賞
を目指しましたが、健闘むなしく入賞に入る
ことはできませんでした。この悔しさを胸に
次回大会は表彰台を目指し頑張っていきたい
と思っています。

環境部

環境部では今年度、農業クラブ平板測量競
技会に向けての活動と専門的な資格取得に取
り組みました。

7月に平板測量競技会の京都府大会が行わ
れました。大会に向け、必死に練習・研究を
重ねましたが、最優秀賞には届かず優秀賞に
終わってしまいました。

気持ちを切り換え卒業までの目標として、
3級鉄筋技能検定の
合格を目指すことに
しました。今年度か
ら新設された検定で
すが、一生懸命取り
組みました。結果は、
まだ分かりません
が、この1年で専門
性を高めることがで
きました。



野菜部

野菜部では、野菜の
栽培方法について基
礎・基本を学ぶこと
を目標に1年間活動し
てきました。

圃場の合間や船南寮
の花壇や1寮の裏側の
畑を借りて、細々とミ
ニトマトやピーマン、
葉菜類などを少量ずつ
栽培実験しました。こ
のにより、栽培技
術の取得には一定の成果を達成できたと思
います。

野菜部は、農業の専門学科で学ぶ放課後ク
ラブであり、より広い知識や授業時間では体
得することができない、出荷調製や事務室前
での販売を体験することができました。

また、野菜部の活動において、ご提案等あ
りましたらお声をかけてください。今後とも
野菜部の活動にご理解をお願いします。

草花部

日頃は、草花や野菜を栽培することによ
り、植物の生育を体感する
ことを目的に活動してい
ます。今年度は特に多肉植
物の増殖を行うことにし
て、授業で触れることの少
ない希少な植物の栽培に
も取り組みました。また、
教育後援会の事業の「草花
の寄せ植え講座」に参加
し、教育後援会の皆様と
ともに寄せ植えづくりを行
いました。

本来、学校生活から楽し
みや目標を見つけるため
にスタートした草花部で
すが、次年度も多くの植物
に触れること、農業高校を
楽しむことを目標に活動
したいと思っています。



台湾農業研修を終えて

国際理解教育担当 山本 裕範

平成28年12月21日 関西国際空港から
CI193便(11時40分発)に乗り、台
南空港に向けて出発しました。
この研修は、グローバルな視点を養い
国際感覚を磨くことや海外の農業事情を
知り自校での学習に生かすことを目的と
しています。また現地の生徒との言葉の
壁を越えた交流により、今までの殻を破
り、ひと回り大きく成長して欲しいとい
う願いから実施しているものです。

今年の参加校は、北桑田高校(4名)、
須知高校(6名)、本校(1年男子4名、
2年女子5名、計9名)の3校で、北桑
田高校の大館健司校長を団長に、3人の
教員が引率しました。今年度は、初日は
台湾首府大学内にある実習ホテル棟での
宿泊でしたが、ホテルのような立派な施
設でした。

国立曾文高級農工職業学校は、生徒数
1800名に及ぶマンモス校で、熱烈歓
迎を受け現地高校生との社交性やエネル
ギーに感激と驚きの連続でした。その
後、生徒間交流があり、ジャム作りの実
習を一緒にしました。続いて海水を使っ
ての塩田作りを見学した後、烏山頭(ウ
サントウ)ダムへ向かいました。このダ
ムは、大正9年(1920年)に着工し、
昭和5年(1930年)に完成した重要
な利水ダムの一つであり台湾初期のダム
です。建設計画は日本人技術者の八田與
一氏により

策定され、
嘉南平原の
農業灌漑を
主目的とし、
今現在でも稼働し
ているダム
です。

次に、台
湾大学の
キャンパス
へ行き、校
内の郵便局
で切手を買



い保護者に
絵はがきを
送ることも
出来ました。
観光地や
生活環境を
見ていると
現代の日本
と比べて決
して豊かで
あるとは言
えない部分
もありませ
うが、今回
の交流によ
り、台湾で暮
らす人々の意
気を感じまし
た。台湾大
学生とのB&G
プログラムに
おいては、現
地で日本語を
学んでいる大
学生と日本の
高校生がグル
ープになり台
北市内を観光
し、楽しい一
時を過ごしま
した。

この研修を機に広い視野を持ち、他
国との文化交流や習慣を理解しようと努
めると共に、自己研鑽に励み、国際化
した現代社会で自信を持って活躍して
欲しいと思います。

帰国後のアンケートでは、「海外に興
味を持った」、「来年度も是非この研
修に参加したい」といった回答をして
くれた生徒が
多くいたこ
とを報告し
ておきます。
最後にな
りますが、
この海外研
修に御尽力
をいただいた
多くの先生
方にお礼申
上げます。



教育後援会 事業及び会計報告

平成27年度
教育後援会
事業報告

月	日	事業名	内 容
4	29	総会	事業・決算・予算の審議と承認
6	上	生徒募集広報活動支援	広報材料作成、府下中学校配布
		海外農業研修準備	広報・募集開始
6	20	研修事業	草花の寄せ植え
9	24	四者会議	農芸祭について ほか
11	13	海外農業研修説明会	台湾研修応募者説明会
11	21	第33回農芸祭	模擬店の開催
11	下	終身会費納入依頼	11・12月分で徴収
12	20～23	海外農業研修実施	台湾研修
2	13	臨時総会	役員体制等について
3	1	第31回卒業式	役員出席
		推薦委員会	役員推薦について
		会報発行	第33号発行
4	11	第34回入学式	役員出席
		役員会	役員体制について

平成27年度
会計決算

収入総額 1,283,913—支出総額 804,762 =差引残額 479,151円(次年度へ繰越)

収入の部

単位(円)

科 目	本年度予算額	決算額	比較増減	備 考
繰 越 金	285,336	285,336	0	前年度繰越額
会 費	848,000	848,500	500	生徒通常 289名 144,500円 職員通常 44名 22,000円 生徒終身 86名 430,000円 職員終身 4名 12,000円 保護者終身 80名 240,000円
寄 附 金	350,000	102,000	-248,000	26件
雑 収 入	664	48,077	47,413	貯金利息 71円 農芸祭販売収入他 48,006円
合 計	1,484,000	1,283,913	-200,087	

支出の部

単位(円)

科 目	本年度予算額	決算額	比較増減	備 考
事 務 費	252,000	131,052	-120,948	封書・葉書郵送料
会 議 費	10,000	4,320	-5,680	
渉 外 費	5,000	5,000	0	渉外費
旅 費	5,000	5,000	0	役員旅費
事 業 費	550,000	236,831	-313,169	農芸祭・会報印刷
生徒福祉費	500,000	290,733	-209,267	生徒募集対策費
慶 弔 費	50,000	28,376	-21,624	香資料・弔電
振込手数料	7,000	3,450	-3,550	寄附金振込手数料
特別積立金	100,000	100,000	0	
予 備 費	5,000	0	-5,000	
合 計	1,484,000	804,762	-679,238	

平成27年度 特別積立金報告

単位(円)

科 目	繰越額	本年度積立額	利 息	積立金合計額	備 考
特別積立金	600,000	100,000	0	700,000	

平成28年度
教育後援会
事業計画

月	日	事業名	内 容
4	29	総会	事業・決算・予算の審議と承認
6	上	生徒募集広報活動支援	広報材料作成、府下中学校配布
		海外農業研修準備	広報・募集開始
6	下	研修事業	草花の寄せ植え
9	下	四者会議	農芸祭について ほか
11	上	海外農業研修説明会	台湾研修応募者説明会
11	23	第34回農芸祭	模擬店の開催
11	下	終身会費納入依頼	11・12月分で徴収
12	下	海外農業研修実施	台湾研修
2	中	研修事業	シイタケ栽培
3	1	第32回卒業式	役員出席
		推薦委員会	役員推薦について
		会報発行	第34号発行
4	11	第35回入学式	役員出席

平成28年度
会計予算

収入の部

単位(円)

科 目	本年度予算額(a)	前年度予算額(b)	増減(a)-(b)	備 考
繰 越 金	479,151	285,336	193,815	前年度繰越額
会 費	873,500	848,000	25,500	生徒通常 289名 144,500円 職員通常 40名 20,000円 生徒終身 80名 400,000円 職員終身 10名 30,000円 保護者終身 93名 279,000円
寄 附 金	250,000	350,000	-100,000	
雑 収 入	349	664	-315	
合 計	1,603,000	1,484,000	119,000	

支出の部

単位(円)

科 目	本年度予算額(a)	前年度予算額(b)	増減(a)-(b)	備 考
事 務 費	260,000	252,000	8,000	封書・葉書郵送料
会 議 費	10,000	10,000	0	会議用茶菓子
渉 外 費	5,000	5,000	0	渉外費
旅 費	5,000	5,000	0	役員旅費
事 業 費	607,000	550,000	57,000	全国農ク参加生徒補助・ 農芸祭・会報印刷
生徒福祉費	550,000	500,000	50,000	生徒募集対策費
慶 弔 費	50,000	50,000	0	香資料・弔電・祝電・祝い金
振込手数料	6,000	7,000	-1,000	寄附金振込手数料
特別積立金	100,000	100,000	0	
予 備 費	10,000	5,000	5,000	
合 計	1,603,000	1,484,000	119,000	

平成28年度 特別積立金会計予算

単位(円)

科 目	繰越額	本年度積立額	積立金合計額	備 考
特別積立金	700,000	100,000	800,000	

平成28年度
卒業生進路決定

進路状況

平成29年2月15日現在

I. 進路状況

企業名・学校名については一部略
() 内は内定・合格者実数

学 科	就 職	進 学	その他	合 計
農産バイオ科	28 (24)	37 (35)	4 (1)	69 (60)
(男子)	18 (15)	30 (28)	1 (1)	49 (44)
(女子)	10 (9)	7 (7)	3 (0)	20 (16)
環境緑地科	12 (11)	12 (10)	0 (0)	24 (21)
(男子)	12 (11)	12 (10)	0 (0)	24 (21)
(女子)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	40 (35)	49 (45)	4 (1)	93 (81)

II. 就職内定状況

内定者実数 *下記企業名は順不同

学 科	農・建設・造園	製 造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員 他	合 計
農産バイオ科	3	11	1	1	7	1	24
環境緑地科	4	4	1	0	0	2	11
合 計	7	15	2	1	7	3	35

- 【農・建設・造園】 株式会社いずみ、京都食肉市場株式会社、谷牧場、株式会社岡野組、株式会社長谷川、株式会社玉井造園、株式会社植治造園
- 【製 造】 株式会社虎屋、株式会社井筒ハツ橋本舗、雪印メグミルク株式会社、黄桜株式会社、株式会社鶴屋吉信、山崎製パン株式会社、厚木化成株式会社、FCM株式会社、佐川印刷株式会社、株式会社白金製作所、広田工業株式会社、ニック工業有限会社、株式会社尾之江車輛内装
- 【運輸・通信】 株式会社サカイ引越センター、匠興業株式会社
- 【卸・小 売】 株式会社やまむらや
- 【サ ー ビ ス】 社会福祉法人アイリス福祉会、ALSOK京滋株式会社、株式会社イノダコーヒ、株式会社JR西日本交通サービス、医療法人清仁会シミズふないの里、株式会社T・Sコーポレーション、株式会社Un Coeur
- 【公務員 他】 京都府職員（初級農業）、長岡京市職員（初級土木）、自衛官候補生

III. 進学合格状況

延べ人数 *下記学校名は順不同

学 科	大 学	短期大学	農業大学校	専修各種学校	合 計
農産バイオ科	11	1	7	16	35
環境緑地科	6	0	0	4	10
合 計	17	1	7	20	45

- 【大 学】 京都府立大学（生命環境学部）、京都教育大学（教育学部）、龍谷大学（農学部）、日本大学（理工学部）、京都造形芸術大学（環境デザイン学科）、京都学園大学（経済経営学部・バイオ環境学部）、花園大学（文学部）、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪商業大学（経済学部）、大阪学院大学（経済学部）、大阪行岡医療大学（医療学部）、至誠館大学（ライフデザイン学部）
- 【短 期 大 学】 京都西山短期大学（保育幼児教育コース）
- 【農 業 大 学 校】 京都府立農業大学校、兵庫県立農業大学校、中国四国酪農大学校
- 【専修各種学校】 北海道農業専門学校、YIC京都ペット総合専門学校、大阪ECO動物海洋専門学校、修成建設専門学校、近畿測量専門学校、京都調理師専門学校、京都医健専門学校、大阪バイオメディカル専門学校、大阪福祉保育専門学校、大阪こども専門学校、京都IT会計法律専門学校、京都芸術デザイン専門学校、京都コンピュータ学院、東放学園専門学校、大阪ベルエール美容専門学校、京都府立障害者高等技術専門学校

求人のお願

全国的に高校生の求人数は増加傾向にありますが、まだまだ厳しい状況です。
求人情報がありましたら、進路指導部まで御提供をお願いいたします。
農芸高校 TEL：(0771)65-0013

会費及び寄付金についてお願い

本教育後援会は、在校生及び在職教職員の会費と卒業生及び卒業生保護者の会費と一般会員の寄付金（1口1,000円）で運営されております。
出費多端の折、誠に恐縮に存じますが、深い御理解を賜り格別の御支援をいただきますよう伏してお願い申し上げます。

■一般会員寄付金 1口 1,000円
■在校生・在職教職員会費 年 500円
■卒業生・卒業生保護者会費 5,000円・3,000円（卒業時に納入）
京都府立農芸高等学校教育後援会振替口座番号（京都 01080-1-9234）

ホームページの活用と
会報誌の送付について

農芸高校のホームページに教育後援会のコーナーを設け、活動内容を掲載しておりますので、御覧いただきますようお願いいたします。

なお、会報誌の送付は総会におきまして、卒業後10年までとさせていただきますので御了承ください。